

柏市協働事業に関する意見交換会の実施報告

令和元年 8 月 30 日 協働推進課

1. 実施概要

回	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	≪意見交換会の様子≫ 
日時	6 月 26 日 (水) 14:00~16:00	7 月 5 日 (金) 16:00~18:00	7 月 29 日 (月) 15:30~17:30	7 月 30 日 (火) 9:30~11:30	
場所	パレット柏 ミーティングルーム F	パレット柏 多目的スペース A	パレット柏 ミーティングルーム F	パレット柏 多目的スペース A	
参加団体	NPO 法人ときわ会まちづくりネットワーク NPO 法人パートナーとうかつ 柏自分史の会 柏サイクル協会 柏の葉ウォーキングクラブ NPO 法人こんぶくろ池自然の森 柏観光プロダクション 越中おわら愛好会東葛支部 柏の葉ポールウォーキングクラブ (計 9 団体 10 名)	S L F ガーデンサポート 我孫子市野鳥を守る会 柏支部 柏土壌医の会 Kashiwa Prog-Science(カシワプログラムサイエンス) NPO 法人こんぶくろ池自然の森 (計 5 団体 5 名)	HCA クラブ 柏市消費生活かたくりの会連絡協議会 認定 NPO 法人東葛市民後見人の会柏支部 (計 3 団体 6 名)	NPO 法人柏市国際交流協会 かしわ子育てまちづくりネットワークこっこつと CAP なのはな (計 3 団体 4 名)	

2. 主なご意見(順不同)

分類	内容
A. 市職員の協働意識	<ul style="list-style-type: none"> 市職員の協働への理解が足りないと感じる。 市側の協働意識や、団体が提案する課題を理解する知識が乏しい。 協働の話合いがなされても急に途絶えることとして、①お金の話、②要求項目の理解、③担当者が変わった等があるが、市側でも自分達が行っている仕事が増えることへの懸念があるからでないか。 市民団体との協働を進めるのであれば、もっと市全体としてトップダウンで市民団体との協働を進めていくべきだと思う。 柏市として第五次総合計画には「市民協働」という言葉が明記されていない。どう表現されているかで、市としての方向性が見えてくるのではないか。
B. 協働の連携体制	<ul style="list-style-type: none"> 市と市民団体との協働を進める前提として、市役所内部の庁内横断的な連携が必要ではないか 協働事業に関係する複数の市担当課同士のネットワーク構築も必要。ある課題に対して市が開くネットワーク会議などにも市民(市民活動団体)を加えて欲しい。それも協働と位置づけられる。 新たな制度を考える時に、市のやる気のある団体と優先的に取り組める仕組みがあれば良いと思う。また市として特定の団体と組むことが難しいのであれば、市が共通のプログラムを示して、各団体に提供するの也不错かと思う。
C. 情報の発信と共有	<ul style="list-style-type: none"> 市としても、市民団体との協働に馴染む事業をしっかりと出すべきではないか。 協働事業提案制度の存在を知らなかった。また市に事業を提案するにあたり、市の担当課が明確ではない。 市民団体から提案するにあたり、行政側のニーズや課題を示してもらえないか 市と市民団体との間で、ある程度テーマを限定し、課題や現状認識の共有を図ることを目的とした意見交換や情報共有の場を設定し、そこで市民団体や市が何ができる率直に意見を出し合い、そこから協働事業をスタートするような制度も考えられる。 市が行っている計画などで、実現できなかった政策等について、関連する市民団体との意見交換会を開催するなどして、政策実現を進めていくのが良いと思う。 まずは、自分たちの活動が市民に知られていないことに課題を感じる。市民団体としても行政に対して、自分達ができることをしっかりと出していきべきだし、行政側も課題やニーズをしっかりと出すべきだと思う。 実際に市との協働事業に取り組んで一番感じたことは、課題に対する現状認識のずれ。市と団体の距離を縮めるためにも、情報交換や意見交換を十分に行なう必要を感じる。
D. 協働事業の評価	<ul style="list-style-type: none"> 市との協働の成果として、自分達の活動がどの程度地域に役立ったのか、フィードバックが欲しい 協働事業の計画し、PDCA(計画/PLAN⇒実施/DO⇒評価/CHECK⇒改善/ACTION)で進める前提として、現場を実際に見て(SEE)、よく考える(THINK)ことが大切だ。 市と市民活動団体との協働事業に対して、今まで外部監査(外部評価)の実施はあったのか?協働事業にも外部評価をした方がよい。(客観的な視点で事業を判断することが望ましい) 他市では、協働事業提案に対し部長クラスが総出で審査している。柏市は当事者意識が少ないのではないか。
E. 協働事業の継続	<ul style="list-style-type: none"> 協働事業は継続していかないことが課題。事業終了後のアフターフォローも含めて3年から5年のスパンで考えるべきだと思う。次年度以降に継続する場合もヒアリングを実施して、継続に向けた課題などと整理するべきだと思う。 従来の提案制度の運用方法について、担当課として2年目につなげる場合、1年目実施中の9月頃に来年度予算を立てなくてはならず、そもそもスケジュールに無理があったのではないか。
F. 協働の多様性	<ul style="list-style-type: none"> 市との「協働事業」となると、責任や継続性の点から重たく腰が引けるが、もっと軽い単発の「協働」でやることはできないか 最近では会場の予約を取るのも大変である。協働事業展開として費用面の支援に限らず、会場予約などで協働できることもあるのでは? 高齢者にとって広報への掲載は大変効果のあるPR方法である。金銭的な協働でなく、団体の説明会を広報などでPRしてくれるだけで協働事業になるのではないか。
G. 市民活動サポートコーナーの活用	<ul style="list-style-type: none"> 市内には、色々なスキルを持った市民団体があるのだから、市としてもっと活用することを考えたらどうか。また市民活動サポートコーナーには市民団体に関する情報が多く集まってくるのだから、市民活動サポートコーナーをもっと活用して、団体情報を発信すれば良い。 サポートコーナーは市側と市民団体側とのコンタクトが取れている有用な部署になっている。市側の各課とのコーディネート役としての役割を強化してはどうか。 協働ためには、市民活動団体の育成も大事だと感じる。サポートコーナーとして団体の育成支援や同じ分野同士の団体に対してマッチング支援などはしてはどうか。
H. その他	<ul style="list-style-type: none"> これからはそれら若い世代同士の横のつながりを作り、若い世代を育てる必要がある。 ここ最近では、協働というと町会自治会のフォローを強く感じる(市民活動団体のフォローが弱い)。